



梨サポーターが活躍

埼玉・南彩
JA南彩 産地維持へ剪定作業

【埼玉・南彩】JA南彩は、無料職業紹介所「JA南彩めぐりサポート・梨栽培サポーター」で、求人者と求職者をつなぐ職業紹介を行っている。1月下旬から3月上旬にかけては、依頼のあった4戸の梨畑で剪定(せんてい)作業をした。

JA管内は県内有数の梨産地だが、高齢化

剪定作業をする梨栽培サポーター(埼玉県春日部市で)

や後継者不足で、生産者や栽培面積が減少傾向にある。梨産地を維持するため、2020年7月から「梨栽培サポーター制度」を始めた。

JAで毎年開く梨栽培講習「新規ナシ栽培塾」の塾生らを梨栽培サポーターに登録。農家から作業の依頼があったときに紹介する仕組みだ。作業は剪定の他、網かけ、収穫などで、一時的に不足する労働力を支援する。

剪定を依頼した春日部市の田口宏さんは「JAの広報誌を見て梨栽培サポーター制度を知った。梨畑の面積が広く剪定作業に人手が必要なので手伝いをお願いした。予定通り作業が終わり助かった」と話した。

梨栽培サポーターの登録者は増え、活躍の場を広げている。サポーターの鈴木精一さんは「支援の輪を広げて梨の産地を維持、発展させる活動をしていきたい」と話した。